

“進路決定に悩まされる”現代の学生たち

～自分らしい進路選択には「キャリア視点のコミュニケーション」が寄与～

内定先に入社していいのか 「分からない」学生たち

まずは、学生が置かれている状況から見ていこう。近年、学生の就職活動では、恋愛において用いられる言葉「蛙化現象」と似た現象が起きていることがリクルートマネジメントソリューションズにより、指摘されている（※1）。内定や入社をきっかけとして、「この企業で本当に良いのだろうか？」などとモチベーションが下がるように見える現象だ。同研究員橋本浩明氏によると、これらの不安が生じる要因は、「自己理解」「相互理解」「仕事理解」「企業理解」の4つが不足していることにあるという。ところが、企業とのマッチングの判断基準となる「自己理解」について、就職活動を経験した2024年卒の学生たちの状況を見ると、自己理解ができていない学生は約6割にとどまる（グラフ①）。

学生の意思決定の状況はどうか。2023年11月の時点で

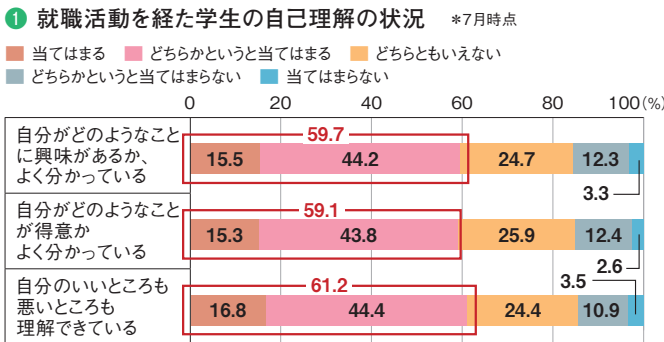
複数の内定を保有している学生に理由を尋ねたところ、入社先を決定できないからと答えた学生が約2割（P9）。就職活動を終えた理由では、「志望度は高くないが、内定を取得したから」「就職活動を早く終えたかった」「就職活動に疲れた」など、一定数は、消極的理由で進路決定している（グラフ②）。十分に思考が深まらないまま進路決定しているケースがあるようだ。今後、人手不足がさらに強まれば、この状況は、より加速する可能性もある。1人の学生が取得する内定社数は、年々、増加傾向にあるからだ（③）。就職活動生のサポートに携わるキャリアアドバイザーは、「自分自身のキャリアの軸を突き詰めて考えたりしなくても、簡単に内定が得られるようになり、いざ1社に決めるとなった段階で、悩む人が増えている」と問題点を指摘する（P27上コラム参照）。

また、内定を得た学生からは、「内定が出るのが早過ぎて、他の選択肢もあったのではと迷いはじめた」など、企業の

※1「2024年新卒採用 大学生の就職活動に関する調査」リクルートマネジメントソリューションズ

学生

就職活動を経験した後も自己理解ができていると思う学生は約6割



出典：リクルートマネジメントソリューションズ「2024年新卒採用 大学生の就職活動に関する調査」

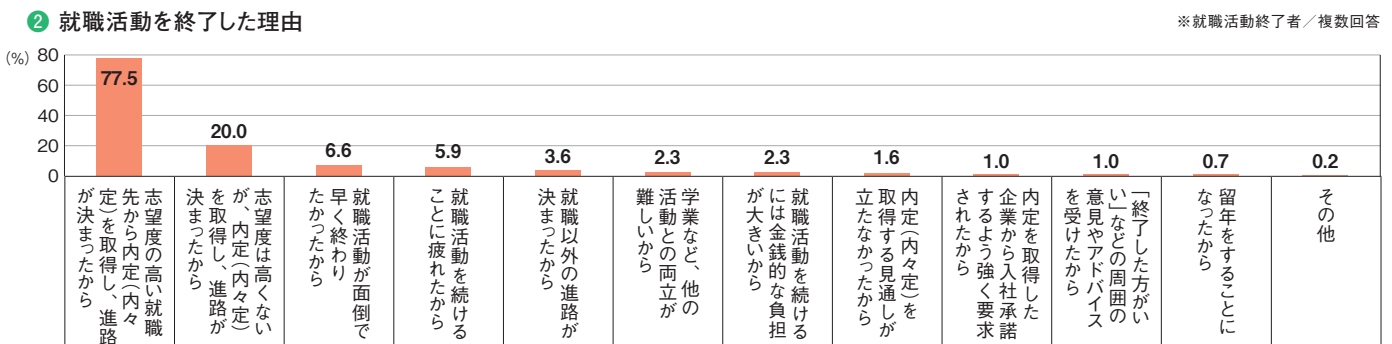
学生

学生の内定取得企業数は年々増加傾向



学生

自分の選択に満足して就活を終える学生ばかりではない





採用姿勢に戸惑う声もあがっている。

自分らしい進路選択は その後の人生を輝かせる

自分なりに思考を深め、自分らしい進路選択ができたかどうかは、その後の人生に、どのように影響するのか。

グラフ④は、入社半年後の社会人に、自身の人生への満足度を尋ね、大学卒業前の「自分らしい進路選択ができた」度合いごとに示したもの。「自分らしい進路選択ができた」と振り返っていた人の方が、自身の人生に満足し、将来を楽観的に見通している傾向が表れた。自分らしい進路選択は、その後の人生にもポジティブな影響を及ぼすことが示唆されたのだ。

そこであらためて、自分らしい進路選択のための方策を考えてみたい。自分らしい進路選択、すなわち自分らしい意思決定には、「自己探索」「環境探索」が寄与するというこ

とはP24で述べた通りだが、このときの調査対象は、大学卒業・大学院修了後3年目までの社会人であった。そこで、今回は、就職活動直後の2024年卒学生について、「自分の基準での進路選択」に対する寄与度を分析した。その結果を示したのが図⑤である。

すると、「自己探索」「環境探索」に加えて、「入社予定企業が自分のキャリアを考えてくれた」が、「自分の基準で進路選択」に寄与していることが示された。企業とのコミュニケーションの重要性が示されたのだ。

また、「就職活動において、タイムパフォーマンス（タイパ）（※2）を意識して行動した」かどうかをモデルの変数に入れたところ、「タイムパフォーマンスを意識した就職活動」は「自分の基準での進路選択」に影響しないことも同時に示唆された。「タイパ」はZ世代や若者が重視する傾向として語られることが多い一方で、その行動は自分らしい意思決定には寄与していないことが示唆された。

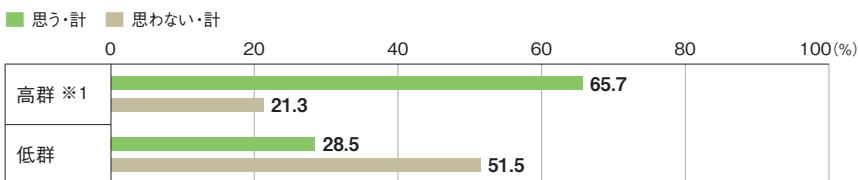
※2 タイムパフォーマンスとは、かかった時間に対してどのくらいの効果が得られたかを示す言葉

社会人

「自分らしい進路選択ができた」と強く実感している人の半数以上が、自分の人生に満足している

④ 自分の人生に満足している

※卒業後半年の社会人・回答者全体／単一回答



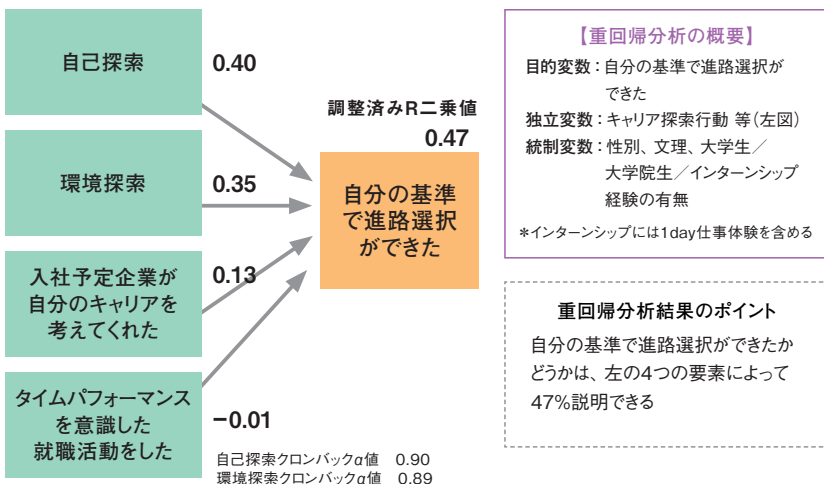
※1 「高群」「低群」の詳細はP37を参照。

学生

「自己探索」「環境探索」「キャリアに関するコミュニケーション」がより良い進路決定に寄与している

⑤ キャリア探索行動と自分らしい進路選択

※就職先確定者／単一回答



軸を定めずに活動しても 内定が取得できる状況に

● キャリアアドバイザー Sさん

コロナ禍以降の学生には、自分なりの基準や軸を定めずに就職活動を始め、内定を複数取得してから比較検討する傾向が目立ちます。その状態でも、比較的容易に内定が取得できる環境にあります。大学生活が制限され、興味関心の材料となる経験が不足していること、情報を共有し、相談する横のつながりが築きにくくなっているためでしょう。

企業の採用姿勢に戸惑う 学生たちの声



第一志望の企業から3年生の12月に内定が出たのですが、人生を豊かにするためには、他の選択肢もあったのではと迷いはじめています。

内定の話題はナイーブなので、友人とは話ませんが、採用が早くなって、周りが行動しているのは明らか。自分だけ後れを取っています。



「3年の2月のうちに内定をくれるのは、〇〇社だからそこを受けよう！」なんて口コミが友人から回ってきて、何のための就活なのか、分からなくなりました。